官民共創の新しいまちづくり協議会　議事概要

会議名	第 7 回伊那弥生ケ丘高校将来活用 WG		
開催日	2025 年 2 月 19 日(水)		
開催時間	開会　18：30	閉会	20：15
開催場所	伊那市役所　101 会議室		
出席者			
協議会・WG メンバー	平賀裕子氏、山本風音氏、吉岡秀幸氏、須永理葉氏		
事務局・職員	商工観光部：柴商工振興課長、林課長補佐 学校教育課：唐澤学校教育課長、伊藤課長補佐		
関係者			
欠席者	大塚純氏		
議事	1．今後の進め方について 2．今後のスケジュール		

議事項目	概要	次のステップ
1、今後の進め方について		
	○WG メンバー ・本日は、先日の協議会からの宿題、次回以降の対話の場について内容と担当者を決めたい。 ・先日示した勉強会の内容のほかにあれば出していただきたい。	
勉強会の内容案の検討	◆勉強会（話題提供+ディスカッション）案 ①　弥生ケ丘高校ツアー ②　「新しい当たり前」説明会 ③　流域治水の考え方からみる弥生ヶ丘高校 ④　スポーツ合宿の可能性(オランダ体育も知りたい) ⑤　持続可能な居場所運営(考える会提案) ⑥　伊那市の屋根のない博物館構想 ⑦　廃校事例集 ⑧　伊那市のまなびコンセプトを深める何か ⑨　実現性、事業性	 →A　担当：吉岡、須永 →B　担当：平賀、山本 →A　担当：吉岡、須永 →D　担当：平賀 →C　担当：須永 →B　担当：山本 →D　担当：平賀 →全体 →共通事項
・「対話の場」の開催日程案	◆「対話の場」開催日程案 4 月　勉強会 A（①、③） 5 月　全体会⑧ 6 月　勉強会 B（②、⑥） 7 月 8 月　勉強会 D（④、⑦） 9 月　プレプレゼン（仮）…大塚	

・12 月のプレゼンについて	１０月　勉強会Ｃ（⑤） １１月　プレプレゼン…大塚 １２月　プレゼン大会 　： 　３月　WG プレゼン資料提出 〇WG メンバー ・プレゼンの中身も夢を語るだけなら、それで終わってしまうので、実現性についても学ぶ場があればいい。 〇WG メンバー ・プレゼンの前にプレプレゼンみたいな、実現性を含めた内容を揉む場が必要。 〇WG メンバー ・市内に移住してきて、事業を行っている人の話なども参考になるのでは。 〇WG メンバー ・地方創生をやっている会社にいた人の話を聞いてみたい。 〇WG メンバー ・夢と現実をセットで進めていった方がよいか。 〇WG メンバー ・提案内容を、いつくかにまとめて開催していきたい。 ・①と③を A、②と⑥を B、④と⑦を D、⑤を C ・開催は、土日の半日、2 時間半で ・⑧は全体会でやった方がいい。早い段階で。 〇WG メンバー ・目標はひとりひとりがプレゼンしたい人に育っていくこと。 〇WG メンバー ・参加した人が、プレゼンやってみようという気にさせなくちゃいけない。 ・それぞれの進め方が重要。 〇WG メンバー ・個人でもグループ組んでもどちらでもよい。 〇WG メンバー ・プレゼンの前提として、自己資金でやるものとするのか、アイデアにより市が支援してもらえるものなのか。 〇WG メンバー	・勉強会を通して、参加者を育てる。

	・内容により公共的なものと民間事業とを振り分けるが、公共的な部分が大半となることは考えていない。 ・入る事業者が事業を行うことは必須で負担を分散させる。 〇WG メンバー ・行政でやるべきかどうかという判定の流れは、どこかで知ってもらった方がいい。民間圧迫にならないようなものに限ると考える。 ・市の施設も使用料で賄っていくように考えている。無料で利用できるものは想定していないので。 〇WG メンバー ・プレゼンされた提案すべてを、プレゼン資料に載せていくわけではない。 ・事業性が成り立たなければ厳しい。 〇WG メンバー ・市民としてこの場所がこうあってほしいというアイデアではなく、現実性のあるその人がどう関わっていくプレゼンとなる。 ・ハードルが高くなってしまう。 〇WG メンバー ・ただ、自分でできないものでも、よい提案は、きっとあるわけだから、事業性がなくて、提案が出されないのも勿体ないとも思う。 〇WG メンバー ・提案する人が、自分ではやらないというものを提案することはなしにしましょう。 〇WG メンバー ・お金はないけど、自分たちの人材で、こういう仕組みで、こういうことができるという提案はありがたい。 〇WG メンバー ・この場所のメインコンセプトはほしい。自分たちがやろうとしていることが見える枠組み。 ・メインコンセプトは WG で考えていかなければならない。 〇WG メンバー ・市のブランディングの話は早い段階でお願いしたい。	 ・メインコンセプトを詰めていく。
2、今後のスケジュール		
・次回の日程	・未定	